足と靴の理論セミナー

西成製靴塾講師　小林 寛明

本セミナーは、西成製靴塾が毎年夏季に外部の講師を招いて実施する、靴に関係する解剖生理学・運動力学・医学についての講座である。１ヵ月のうちに集中して学ぶので、これらの知識の全体的な構図を理解・把握することができる。

西成製靴塾は、長年地元で働いてきた職人の技術を職人本人から直接学べることに特徴がある。その半面、本セミナーが教授するような解剖生理学・運動力学・医学についての知識を教授するような講座は組んでいない。「師の仕事を目で盗んで学ぶ」という従来からある技術の継承に傾倒してしまいがちな本校において、まったく異なる科学的な視点から靴の製法にアプローチする本講座に参加することは、靴づくりに対する学生の姿勢や考え方を大きく押し広げるという意義をもっている。

夏季という時期に実施するメリットもある。本校の学生は４月から手縫いの製法で靴をつくる工程を学び、ひととおりの工程を済ませた段階にある。すべてのことが初めてなので、学生はこの半年のあいだに十分に消化しきれていないこと、新たに気付いた疑問などを持っている。本セミナーはそういった学生の疑問解消・気分転換の格好の機会になっている。

講師の古瀬氏はかつて西成製靴塾の講師であったこともあり、本校の特徴については熟知している。また、資料にもあるとおり、海外の認定資格も取得しており、関西の業界では確かな信用を築いている第一人者である。第一人者の靴づくりに対する熱意は、知識だけでは伝えられないものを学生に伝え、毎年、セミナー後も古瀬氏のもとに通い師事を仰ぐ学生がいるほどである。

さて、授業内容は、靴に関するものであるとはいえきわめて高度な専門的知識を教えるものになっており、初日は「何を話しているのかわからない」「雲を掴むような話」などと学生も戸惑いを隠せない様子である。しかし、本校の学生は製靴の職人になることを目指してこの一年を学びの期間に充てることを決意した者ばかりである。難解な内容も熱心に耳を傾け、わかならないところは質問するなど積極的にセミナーに参加しているため、内容の理解度は日に日に向上する。講座の最終日には、自分の得意とするところ、課題として残っているところ、今後目指すべき方向性などを各自で認識し、靴職人になるのに必要な次のステップを踏もうと意気込んでいる姿をみることができる。そうした学生の姿をみると、この理論セミナーを開催することの意義を感じずにはいられない。

現在、日本の靴の業界は全体的に衰退の傾向を辿っている。わが西成製靴塾の学生はそのような厳しい逆境に敢えて立ち向かう期待の星とも言える。製法を一年間学んだからといって、すぐに一人前の靴職人が生まれるわけでないことは承知しているが、本校を去った後も、職人や講師から学んだことが後のキャリアで役立つことを確信している。

（１，１７０字）